

会 議 録

会 議 名	平成 30 年度東浦町パートナーシップ推進事業 事業報告会	
開 催 日 時	令和元年 5 月 26 日（日） 午後 1 時から午後 2 時 5 分まで	
開 催 場 所	東浦町勤労福祉会館 会議室 2	
出 席 者	委員	吉村輝彦委員長、牧野清光委員、野村雅廣委員、 福澤敦委員、戸張里美委員
	事務局	長坂課長、筒香補佐兼協働推進係長、山田主事
	採択団体	東浦地域ねこの会、ひがしうら映画プロジェクト
議 題	1 平成 30 東浦町パートナーシップ推進事業 事業報告	
非公開の理由		
傍聴者の数	17 名	
審 議 内 容 (概 要)	委員の出席及び会議の成立を確認	
	<p>議題</p> <p>1 平成 30 年度東浦町パートナーシップ推進事業 事業報告</p> <p>平成 30 年度東浦町パートナーシップ推進事業採択事業（テーマ特定型 2 件）について、プレゼンテーション形式で報告を行い、各団体の報告の後、それぞれ質疑応答及び講評を行う。</p> <p>審査委員からの質疑応答及び講評の後、参加者からの質疑の時間をとった。</p> <p>実施事業の概要、質疑応答及び講評については下記のとおり。</p> <p>(1) 「人と猫が共生できるまちづくり」（テーマ特定型）</p>	
	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者のいない猫の数を不妊去勢手術により、人道的に減らし、猫による住民トラブルを減らす。 ・無責任なエサやりの改善を図り、環境美化を目指す。 ・地域住民への猫の適正飼育、地域猫活動の周知を広げることにより、人と猫が共に暮らしやすい東浦町にする。
事業内容	<p>茶話会の開催</p> <p>地域猫セミナー開催</p> <p>岡田川清掃活動</p> <p>緒川区 野良猫の問題についてのアンケート</p> <p>地域猫イラストコンテスト</p>	

	ミルクボランティア講習会参加 地域猫活動講演会&小さな命の写真展開催 保護猫譲渡会の開催 石浜中自治会に地域猫の説明会開催 チャリティーイベント開催
事業成果	・所有者のいない猫の TNR-M 101 匹 ・町内苦情件数は 30 件（平成 29 年度）から 25 件（平成 30 年度）に減少
その他 （今後の活動について）	・今後は活動の周知により理解・協力してくれる人を増やすことが課題。 ・平成 31 年 4 月に緒川区を対象としたアンケートでは活動を継続してほしいが 80%以上だった。

（委員）

緒川地区の地域住民はどのように活動に協力していたか。

（東浦地域ねこの会）

捕獲の場所の提供、TNR-M のマネジメント段階（餌やりなど）をしてもらっている。

（委員）

手術済みの猫を 100% に近づけるためのビジョンは。

（東浦地域ねこの会）

ボランティア、地域住民、行政の三者協働が必要。

（委員）

アンケートの結果として猫の被害は「変わらない」が多かったことについてはどう考えているか。

（東浦地域猫の会）

この活動では捕獲し手術した猫を一度戻すため、被害を受けている方からすると「変わっていない」という結果になったと思う。一方で、「今年は子猫を見なかった」という意見をもあった。野良猫は寿命が 4～5 年であるが、活動は 1 年目であるため長い目で見て続けていきたい。

（委員）

地域活動は、立ち上げた 1 年目は勢いで行っても、息切れしてしまうと思う。辛いこともあると思うが、どのようなことがあったか。

（東浦地域猫の会）

・ 電話相談を行っていたが、「あなたたちの活動には何の意味もない」「なぜ猫を処分してはいけないのか」「被害者ではなく猫

好きの活動だ」といった厳しい意見もあった。100%の方が支持してくれる活動ではないため、困っている方にとっては被害者に寄り添った活動をしてほしいと思われていたと思う。理解してもらうために長時間説明しなければならないのが辛かった。

- ・ 地域の方に理解を求めて話していると最後には理解し、応援してもらうことができた。周知活動は最初は辛いこともあるが、説明すればわかってもらえる。活動の意義を感じた。
- ・ 戸別訪問をした際に業者と勘違いされて猫を連れて行ってほしいと言われるなど、活動に対する理解が進まなかった点に苦労した。

(委員)

藤江地区の数がモデル地区の緒川地区に次いで多かったのはなぜか。

(東浦地域ねこの会)

藤江地区 32 匹のうち、27 匹はひとつの家で行った。2 匹の猫にエサを与えていたら 2 年で増えてしまったとのこと。

(参加者)

決算報告書はないか。

(事務局)

審査委員には配布しているが一般の参加者には配布していない。

(2) 「町制 70 周年を記念とする市民映画の制作」(テーマ特定型)

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映画制作を手段とした地域デザインの構築 ・ 東浦町の認知度向上 ・ 多文化・多世代交流
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映画制作 オーディション、キャスト説明会、制作発表会、演技指導、映画撮影 ・ 映画上映会 2 回
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回上映会 350 名参加 ・ 協賛者(事業所・個人) 配布用として DVD とパンフレットの制作
その他	

(委員)

団体の代表を代わった理由は。今後の活動があるのであればどの

ような活動か。

(ひがしうら映画プロジェクト)

代表を代わった理由としては前代表の体調不良。また、人材育成のため新たなメンバーによる新たな体制を作ってほしかった。

作中の LGBT に関する表現について LGBT 団体から指摘があり、一時的に上映会を中止してほしいとの申し入れがあったため今後当該団体と話し合いをしていく。

(委員)

収支決算書について、収入と歳出を比べると 32 万円ほどの剰余金があると思う。この剰余金はどうするか。

(ひがしうら映画プロジェクト)

使い道についてはプロジェクトの中で相談する。

(委員)

クラウドファンディングは最初から行うつもりだったのか。また、どのように行ったか。目標額は達成できたか。

(ひがしうら映画プロジェクト)

クラウドファンディングは途中でこのような方法があると勧められ、行うことにした。目標額には届かなかったが、地元の名産品等を送り、東浦町を知ってもらう機会になったと思う。

(委員)

助成金 25 万円はどこからのお金か。

(ひがしうら映画プロジェクト)

知多信用金庫の「夢サポート」を活用した。

(参加者)

事業の目的として「大学生と協働をし、10～20 代により知ってもらう機会を創出したい」ということが掲げられていたが、大学生との協働はどのように行ったか。10～20 代に知ってもらう機会は創出できたか。

(ひがしうら映画プロジェクト)

監督が愛知淑徳大学に勤めているため、ゼミの学生 15 名程度に撮影に協力してもらった。上映会でも 10 名ほどの学生に手伝ってもらっている。日本福祉大学の学生等、それ以外の方にも助けていただいている。大学との協働はうまくいったと思っている。キャストとして小学生・中学生も出演している。

(参加者)

代表交代に伴う引継ぎをしていないとのことだが、思想の引継ぎをしない選択はあると思うが、予算や通帳等 LGBT 団体とのやり取りの引継ぎは必要なのではないか。

協賛者には金額に伴って DVD が発送されることになっていたが、届いていないという声を複数聞いている。発送はどのように確認しているか。

(ひがしうら映画プロジェクト)

引継ぎはうまくいっていない現状があるが、多様性を大事にしていきたい。わからないことがあれば前代表として現代表・副代表のフォローはしていく。方向性以外の面の引継ぎについては話し合いを進めている。

DVD については状況を把握していないため、プロジェクトのメンバーに教えてほしい。

(参加者)

DVD については頒布会を計画していたが、間に合わなかったため発送という形になったはず。頒布会ができていれば届いていないという問題は起きなかったはずだが、なぜ頒布会に間に合わなかったのか。

(ひがしうら映画プロジェクト)

頒布会は3月に企画していたが、手違いで DVD の納品が間に合わず急遽中止とした。本来ならば照らし合わせて郵送を確実に行うべきであったが、不十分であったと思う。

(参加者)

発送時に本人に届いたことが分かる形で発送するのが本来ではないか。届いていない人がいるということは、普通郵便で送付したのか。

(ひがしうら映画プロジェクト)

発送はゆうパックで行っている。届いていない方がいるのであればプロジェクトで相談して発送を進めていきたい。

(参加者)

ゆうパックで発送しているのであれば、宅配状況はインターネットで確認できる。確認し、すぐに発送をしてほしい。

(ひがしうら映画プロジェクト)

改めて配布先の照らし合わせ作業を行い、責任をもって発送する。

最後に吉村委員長よりパートナーシップ推進事業全体について、総括としての講評をいただいた。

(委員長)

総括というより今後に向けた反省になるが、報告会は助成事業に対する報告会であるので、事業の目的に対しどの程度達成したのか

という観点をプレゼンテーションで伝えてほしい。聞いている人にとって大事な点である。

補助金についても同様で、審査員の資料には収支決算書があるが傍聴者の資料には無いというのも情報格差がある。これからチャレンジしたい人にとっても良くない。資料として配るかどうかは別にしても、プレゼンテーションの中で補助金の使い道や、「補助金があったからこういったことができた」という観点を強調してほしい。

今日のプレゼンテーションは団体の活動の取り組みと、その一部である補助金を活用した取り組みが混ざっている点が複雑である。

東浦地域ねこの会の場合であれば、試行的には全地区を行っているが、補助金の使い道としては緒川地区での取り組みであると思う。予算の話は緒川地区が中心であるが、プレゼンテーションの中では広く全体の話をしてきた。また、プレゼンテーションの中ではアンケートやチラシに関する話があるが、決算を見るとこの費用は補助金の中からは出ていない。活動報告のうちどの部分を補助金で賄っているかがあいまいである。その部分を明確にした方が、「補助金はこうした取り組みに使っている」ということが分かる。あくまでパートナーシップ推進事業の報告会であるので、団体の活動報告会とは違う。次年度以降はその点を明確にした方がよい。

地域住民や、学生との協働に対する質問があったが、取り組みは一過性で終わらせるのではなく、これをきっかけとして広がっていくことや、様々な人を巻き込むことが重要。それがどの程度達成できたかが、次のステップに進む際に大事な視点である。これからの活動の中で大切にしてほしい。

改めて目的に照らし合わせてどこまで達成できているかを確認し、より多くの人を巻き込まなければいけないのではないかと、そのためには何をしなければならぬかを考えることが大事だと思う。